

週 報

こひつじ

第41巻 31号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

パンだけによらず

その三 神のことばが人をつくる

このように人を生かすのは言葉 ない歩き方をのしる言葉を容赦 である。言葉なしに人が人として なく彼に浴びせかけた。 生きることとはむずかしい。

しかしどんな言葉によって生き の心をゆがめてしまったのだと、 るのか。それによって人はよくも ある伝記作家は書いている。 なければ、悪くもなる。

イギリスの詩人バイロンはすぐ か。それが私たちの人生を決める のである。

言葉はいろいろだが、私たちの 魂を慰め、励ますもので、神のこ とばにまさるものがあるだろうか。 聖書は言う。

彼は容姿の美しい少年だった。 「主のみおしえは完全で、たまし かし生まれつき足が不自由だつ いを生き返らせ、主のあかしは確 た。彼の母親は、彼女の気持ちか で、わきまえない者を賢くす いらだっているとき、彼のぎこち る。主の戒めは正しくて、人の心

を喜ばせ、主の仰せはきよくて、 人の目を明るくする。・・・それ

らは、金よりも、多くの純金より も好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣 のしたたりよりも甘い。また、そ れによって、あなたのしもべは戒 めを受ける。それを守れば、報い

は大きい」(詩篇一九の七―一二) 主のみ教えは、たましいを生き 返らせると言う。わきまえない

者を賢くすると言う。人の心を喜 ばせ、人の目を明るくすると言う。 神のことばとは、何と多くのこ

とをしてくれることか。 イエスはご存じだった。 人をつくり、人を人たらしめる

のは、神のことばであると。そこ で言われたのだ。 『人はパンだけで生きるのでは なく、神の口から出る一つ一つの

ことばによる』と 結局、人生でもっとも大切な のは、富でも、豊かさでも、事業の

成功でもなく、私たちが、どんな 人間であるかということなのでは ないだろうか。 『夜と霧』の著者 فرانクルは、 ナチスの強制収容所でそれを学ん

だ。そこでこう言った。

「私たちは、強制収容所で人間を 知りました。強制収容所では、あ らゆる非本質的なものが人間から

溶け去りました。人間がもつすべ てのもの『金、権力、名声、幸福』

が抜け落ちたところ、人間が『持 つ』ことができず『ある』ことし かできないものだけが残ったとこ

ろ、そこで残ったものは、人間自 身だったのです」

すべてを失ったとき、残ってい たのは、自分がどんな人間である かということだけだったというの である。

人間は、動物のレベルにまで落 ちることもあれば、天使のような 存在にまで自らを高めることもあ

る。どちらであるかは、どんな言 葉で自分を養ったかによる。 そこでイエスは、神の口からで

る一つ一つのことばによって生き よ、と言われたのである。

ヘレンケラーの魂を解放し、彼 女に新世界をもたらしたのは言葉 だった。できれば私たちも、言葉 によって自分の心の世界を広げた

いものだと思う。(終)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から。

○教会学校は午前一〇時半から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は岩崎宏志さん。山鹿からきておられる有働和子さんが、どのようにしてイエス様と出会ったかについて語り、そのあと江藤洋子さんが、マルコ二章二一節から、自分の体験を交えた説教をしてくださいました。

○礼拝参加者は八九名(男三四、女五五)それに子どもが七名、合わせて九六名でした。

サマー・セミナー案内

ゲスト―富浦信幸牧師(関西聖書学院舎監)とその家族

○八月一六日(土)

午後三時からピンポンほか。

午後四時から集会。

午後五時からバーベキュー。

○参加費用はバーベキューも含め、無料。ただし自由献金箱がおりてあります。

○八月十七日(日)

午前一〇時半から礼拝。

説教は富浦牧師。

礼拝後、昼食交わり会。

説教の日程

八月一七日

富浦牧師夫妻

八月二四日

米村牧師

八月三一日

豊田牧師夫妻

九月七日

米村牧師

九月一四日

坂田壮一さん

九月二一日

米村牧師

牧師身辺

加藤純也さんからの便り

(加藤夫妻は山梨県甲府市で長く牧会したあと、中国に渡り、大

学で日本語を教えておられました。現在は退職して栃木県にお住まいです。ぼくの古くからの友人です)

英二さん、

おはようございます。今日も三

六度の予報が出ています。老いの

身には、ちよつときびしい暑さですね。狭い家ですが、けっこう堅牢な建物で、建て付けがよいので、しょうか、冷暖房は効果的です。出不精になるといけないので、朝のうちに買い物をしています。

英二さんは、まだ運転はしておいでですか？こんなに暑いと、免許証を生かしておけばよかったかとも思いますが、反面、事故からは解放されていますから、やはりよい選択だったのでしょうか。

地方都市は、みなさん高齢でも運転されています。ラジオ体操仲間の九四歳の元会長さんは、車の運転はまだ現役なのだそうです。キビキビしておられて負けそうです。よい一日をお過ごしください。

純也

ぼくの返事

純也さん、

ぼくも一二月がくると、八〇歳になります。車はまだ運転しています。前回、高齢者講習を受けました。認知機能検査がいちばん大変です。正面の画面にいくつかの絵が映り、すぐに消されたあと、そこに描かれていたものを、みな

記せ、という試験です。とてもできません。あれから三年が過ぎて、一〇月にまた、その試験です。それに受ければ、八三歳まで運転できます。でもパスできるでしょうか。自信はありません。

こちらは田舎です。車はまだまだ必要ようです。

きょう、ケニー広子さんから便りがきました。お元気なようです。すっかりした字でした。もう九〇歳になられるのではないのでしょうか。いつも週報を送って、こちらの近況をお知らせしているの、そのお礼でした。

モーレンキャンプさんもお元気です。八九歳です。まだ運転して、日曜日ごとに教会をまわり、説教しているそうです。この前はオランダのチーズを送ってくださいました。

ぼくは耳が遠くなりつつあります。大勢の人の会話には補聴器なしにはついてゆけません。今後、ますます自分の世界に閉じこもってしまうのではないかと、幸子さんが心配します。老いは、確かに迫ってきていますね。お元気で。